

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371301165		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム 集い		
所在地	名古屋市守山区瀬古3丁目830番地		
自己評価作成日	平成27年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成27年 9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2371301165-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2371301165-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 8月28日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で「普通に暮らす」ことを大切にしていきます。要介護、認知症として心身の機能が衰え日常生活に他者の手が必要となっても、「その人がその人らしく生活できるよう」その人の意思を尊重し利用者主体の生活を支援していきます。「暮らしの場」を大切にしていきます。職員も、相手を想う「思いやり」の気持ちを大切に、利用者様と信頼関係を築いていきます。入居されている皆様が、「安全』『安心』『安楽』に過ごしていただけるよう、「今日も、ここに居て良かった」と思っていたけよう支援していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の求める「普通に暮らす」、「利用者主体」の支援が職員にも浸透し、家族からの信頼・感謝を受けている。  
 利用者の自由で主体性ある暮らしを推進し、玄関や1階と2階をつなぐ階段の扉にも施錠はない。訪問調査当日、男性利用者が何度も玄関から庭に出入りしていた。以前、利用者の無断外出があって騒動となったが、それでも「鍵をかけない支援」は継続されている。  
 高齢化や要介護度の進行等によって外出支援に影響が出てきているが、利用者と職員が1対1での密度の濃い支援を展開している。依然通っていた馴染みの喫茶店に立ち寄り、懐かしい知人達から歓待を受けた。前回の国政選挙では、3名の利用者が選挙権を行使した。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有のため朝礼時法人理念の唱和を行い、理念の実践ができるようフロア(ケア)会議を行い理念に基づくケアの実践に努めている。	法人理念に則り、住み慣れた地域でその人がその人らしく暮らせることの支援を方針としている。職員も理念、方針を理解し、職員都合に流されず利用者主体のケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への協力、夏祭り、敬老会など地域行事への参加、地域への買物や喫茶店へ行き地域交流を図っている。	自治会に加入し、地域の敬老会や夏祭りに参加している。外出は地域の社会資源を活用し、保育園児との交流は定着している。認知症サポーター養成講座の開催等、ホームからの情報発信も視野に入れている。	前回の国政選挙では3名の利用者が投票を済ませた。利用者の社会参加がさらに推進されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容は報告され、適時サービス内容について検討がされている。	利用者、家族、地域代表、いきいき支援センター職員、同法人他施設職員が参加し、運営推進会議を年6回開催している。ホームの現状報告と併せ、防災や健康管理等、毎回テーマを決めて情報交換を行っている。	ホームからの状況報告や意見交換にとどまらず、会議メンバーによる目標達成計画の評価(進捗管理)が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者については区の担当者へ定期的に状況報告している。その他、随時入居状況をお知らせしている。	利用者に生活保護受給者がおり、区の担当部署(保護係)と緊密に連携をとっている。半年に1~2回区の担当者が面接に来訪し、保護係のケースワーカーからは入居の問い合わせや依頼がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、防犯上夜間のみとし日中は開錠されている。身体拘束についても、禁止行為のないよう全職員で取り組んでいる。	玄関はチャイムを活用し、施錠することなく見守りで対応している。訪問当日も利用者は自由に入出入りしていた。利用者の自由な生活を支援するため、言葉による拘束にも注意を払い、階段、エレベーター等全てが自由に使用できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会は設けられていないが、職員間で注意しあいながら、適時指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターの指導の下、身元引受人のない人の入居あり。成年後見制度等の学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、わかりやすい説明に心がけ、ご納得頂けるよう質問等もお伺いしている。制度改定時も事前に説明し質問などにも迅速な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書にある外部苦情受付窓口を設置している。	家族の面会は頻回で、遠方の家族も大勢で来訪している。日常の電話連絡と併せ、その都度家族意見の聞き取りを行っている。家族アンケートの満足度は極めて高く、職員の親身なケアへの感謝の言葉が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は施設長が対応し、適時関係部署と協議の上、反映させている。法人としても職員のアイデアを運営に反映させる仕組みを取り入れている。	職員会議において、職員は利用者個々の生活歴を再度見直し、それに基づく余暇の充実、個別対応のケアへの提言がなされ、ケア会議の設置が決められた。管理者は職員の自主的な取り組みを支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として半期に一度の査定評価、昇級試験の導入などにより職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合わせた法人内外の研修参加への機会を設けている。法人として介護福祉士資格取得希望者に介護者初任者研修への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の委員会、研修、勉強会などを通じて交流の機会を持ち情報交換などを行い、互いの施設のケアの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者のこれまでの人生について全般的な情報収集を行う。その方の過去の生活、現在の状態、そしてこれからどんな生活を望んでいるのか、ご本人、ご家族等と話し合いながら良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、集いでどんなケアをしているのか説明しながら、どんな要望があるのかお尋ねしてご納得頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の情報を頼りにケアを行うが、再度ご本人、ご家族からケアについて聞き取りを行いながらケアの調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の様子をみながら可能な限り自分でできることは自分で行って頂き、互いに協力し合いながら生活をしていけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも無理のない範囲で面会をお願いしてご本人について情報交換を行いながら、集いで御本人が望む暮らしの実現ができるよう協力体制づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族などにお尋ねして馴染みの人や場所などを把握して、可能な限り関係が維持できるよう支援している。	馴染みの場所へのドライブや散策に積極的に取り組んでいる。自宅近くの行きつけだった喫茶店へ出かけた利用者は、懐かしい人々の歓待を受け交流を図ることができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適時ご入居者間に職員が入り、良い関係ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族がボランティアとして集いで活動されているが、積極的な支援はできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人の希望を取り入れながら支援している。意思表示の難しい方などにもできる限りご本人の意向に近い形で支援するよう心がけている。	職員は利用者個々の生活歴を参考に、その人がどう生きたいかを考えながら接している。その人がしたい事を会議の場で話し合い、情報共有して実現できるよう取り組んでいる。	日々の生活の中で発せられたシグナル(思いや意向)を、職員会議やサービス担当者会議につなげるルールが明確になっていない。記憶に頼らず、記録に残す工夫を願いたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者について生活歴などをまとめ、その人がどんな人なのか、どんな生活を望んでいるか、ご本人、ご家族等と職員で話し合い、日頃のケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、フロア会議等により、各入居者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議、申し送り時の状態把握を通じて、プランについて検討を行い、現状に即したプランとなるように努めている。	状態の変化時と3ヶ月に1回計画の見直しを行っている。家族意見を得て、会議で話し合っ、適切な介護計画が作成できるよう取り組んでいる。しかし、利用者や家族の意向、計画の内容共に繰り返しが多い。	管理者、介護支援専門員、計画作成担当者共に、「個別ケア」の必要性を認識している。利用者の思いの詰まった「その人らしさ」の感じられるプランの作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を活用しながら、申し送り時に気になることは適時ミーティングを行い適切なケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態をみながら、デイサービスや他ユニットなどを活用してその時できるケアを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歯科往診や避難訓練等、ご入居者に必要であることなどについては適時調整して活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族に了解を得て、毎週月曜日に主治医に往診して頂いている。その他、ご家族等のご希望により他の医療機関へも受診されている。	ホーム協力医が週1回往診している。家族がかかりつけ医へ同行受診する際には、日常の様子を書面にて情報提供している。看護職員が日常から健康管理を行い、緊急時には協力医と連携して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師に相談しながら、適切なケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近入院される方がいないが、ご入居者の入院時には、情報提供のため介護・看護サマリーを提出して病院関係者との情報交換に努める。入院中、お見舞いに行き病院スタッフと情報交換を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族への説明は、入居時に行っている。その他、状況に応じてご家族にその都度対応について確認しながらご本人ご家族の納得のいく対応ができるよう努めている。	利用者や家族の意向を大切に、家族や医師の協力を得ながらホームでできる限りの対応をしたいと考えている。重度化に際しては適切な施設移行、医療への移行、ホームでの看取り等の選択肢を持ち、家族と十分に話し合っ最適な方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、職員により能力に違いがある為勉強会などを行う予定であるが、実践できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害時に備えている。近隣の企業や住民とも連携して訓練を年1回行っている。	月1回様々な想定の下に避難訓練を行っている。さらに、協力を依頼している近隣住民も参加した訓練を年1回行っている。水害の恐れのある時は同法人の特養施設へ避難することとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の人格尊重や誇りを大切にするケアができるように、事例検討会などご本人のこれまでの人生を把握する活動を行っている。	今年度の事業計画の一つとして「ゆったりと過ごせる空間、言葉やマナーに注意したケア」を掲げ、職員は意識を統一して日常のケアにあたっている。要望があれば同性介助にも対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望について可能な限り実現できるよう業務に余裕のある時間をつくり実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご入居者の生活リズムを優先するよう指導しているが、起床や食事など細かな所で業務都合のケアが見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後など更衣の場面で、特に身だしなみに気をつけているが、多忙時などの職員に余裕がなくなると身だしなみに気がまわらないことがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど個々のご入居者ができることを職員と共に楽しみながら活動できるよう支援している。	利用者は個々の能力に応じて調理の下準備や下膳、食器拭き等を行っている。両ユニット共通の献立であるが、職員の判断で若干のアレンジが加わる。誕生日には希望のメニューが登場する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好にあった食事の提供に心がけている。便秘がちな方には水分量を把握して摂取量を増やせるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昨年より歯科往診を導入して口腔ケアを強化している。ご本人の能力に合わせたケアに心がけ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご入居者の排泄能力に合わせた介助に心がけている。ご本人のできることに着目して可能な限り自力で排泄行為が成立するよう支援している。	利用者個々に適した支援方法を職員間で話し合い、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。歩行に困難が生じ始めた利用者はポータブルトイレを活用し、プライバシーにも適切な配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に注意しながら、適度な運動を促し便秘改善に取り組んでいるが、改善されていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限りご本人の希望に添えるよう支援している。季節感が味わえるよう菖蒲湯やゆず湯なども行っている。	週2回以上午後の時間帯に1対1でゆったり入浴できるよう取り組み、ほぼ毎日入浴する利用者もいる。入浴を好まない利用者には無理強いすることなく、相性のよい職員の声かけで入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく寝られるよう、空調、時間などの環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	向精神薬の取り扱いに注意し、薬に頼らないケアの在り方について全職員で取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のご入居者の好みに合った活動を把握し、ご本人のペースで活動できるよう心がけながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日頃の会話の中で希望を聞いたり、ご本人の嗜好に合わせた外出支援を行っている。	利用者の高齢化、重度化に伴い、日常の外出は1対1での対応が増えている。季節に合わせた花見や初詣、遠足等のイベント外出にも取り組んでいる。イルミネーションの季節には市内を見学ドライブに出かけた。家族による外出(外食)支援の協力もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理となっているが、ご本人の希望を考慮しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿う形で、できる限り迅速な対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や親しみのある掲示に心がけながら、行事写真や作品などを展示している。	社員寮を改装したホームで、全てのスペースが広々としている。テラスも十分なスペースがあり、花や野菜が植えられ、春先にはオープンカフェを模してモーニングコーヒーを楽しんだ。玄関横に置かれたベンチでは、利用者が自由に自分の時間を楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くのご入居者が日中ホールで過ごされることが多いため、ご入居者間の相性等に配慮した座席となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の環境、ご本人の希望を可能な限り取り入れながら、居心地の良い住環境となるよう配慮している。	居室は広く、床に畳を敷いて就寝する利用者や自室の冷蔵庫で購入した物を保管して飲食する利用者もいる。テレビ、たんす、位牌、書籍と思いのこもった物品が揃い、その人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りなど安全に配慮しながら、可能な限り自由に活動して頂けるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371301165		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム 集い		
所在地	名古屋市守山区瀬古3丁目830番地		
自己評価作成日	平成27年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成27年 9月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371301165-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371301165-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年 8月28日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域の中で「普通に暮らす」ことを大切にしていきます。要介護、認知症にとして心身の機能が衰え日常生活に他者の手が必要となっても、「その人がその人らしく生活できるよう」その人の意思を尊重し利用者主体の生活を支援していきます。「暮らしの場」を大切にしていきます。職員も、相手を想う「思いやり」の気持ちを大切にして、利用者様と信頼関係を築いていきます。入居されている皆様が、「安全」「安心」「安楽」に過ごしていただけるよう、「今日も、ここに居て良かった」と思っていたら支援していきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有のため朝礼時法人理念の唱和を行い、理念の実践ができるようフロア(ケア)会議を行い理念に基づくケアの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への協力、夏祭り、敬老会など地域行事への参加、地域への買物や喫茶店へ行き地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容は報告され、適時サービス内容について検討がされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者については区の担当者へ定期的に状況報告している。その他、随時入居状況をお知らせしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、防犯上夜間のみとし日中は開錠されている。身体拘束についても、禁止行為のないよう全職員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会は設けられていないが、職員間で注意しあいながら、適時指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターの指導の下、身元引受人のない人の入居あり。成年後見制度等の学ぶ機会には設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、わかりやすい説明に心がけ、ご納得頂けるよう質問等もお伺いしている。制度改定時も事前に説明し質問などにも迅速な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書にある外部苦情受付窓口を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等は施設長が対応し、適時関係部署と協議の上、反映させている。法人としても職員のアイデアを運営に反映させる仕組みを取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として半期に一度の査定評価、昇級試験の導入などにより職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合わせた法人内外の研修参加への機会を設けている。法人として介護福祉士資格取得希望者に介護者初任者研修への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の委員会、研修、勉強会などを通じて交流の機会を持ち情報交換などを行い、互いの施設のケアの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者のこれまでの人生について全般的な情報収集を行う。その方の過去の生活、現在の状態、そしてこれからどんな生活を望んでいるのか、ご本人、ご家族等と話し合いながら良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、集いでどんなケアをしているのか説明しながら、どんな要望があるのかお尋ねしてご納得頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の情報を頼りにケアを行うが、再度ご本人、ご家族からケアについて聞き取りを行いながらケアの調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の様子をみながら可能な限り自分でできることは自分で行って頂き、互いに協力し合いながら生活をしていけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも無理のない範囲で面会をお願いしてご本人について情報交換を行いながら、集いで御本人が望む暮らしの実現ができるよう協力体制づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族などにお尋ねして馴染みの人や場所などを把握して、可能な限り関係が維持できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適時ご入居者間に職員が入り、良い関係ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていた方のご家族がボランティアとして集いで活動されているが、積極的な支援はできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人の希望を取り入れながら支援している。意思表示の難しい方などにもできる限りご本人の意向に近い形で支援するよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者について生活歴などをまとめ、その人がどんな人なのか、どんな生活を望んでいるか、ご本人、ご家族等と職員で話し合い、日頃のケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、フロア会議等により、各入居者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議、申し送り時の状態把握を通じて、プランについて検討を行い、現状に即したプランとなるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を活用しながら、申し送り時に気になることは適時ミーティングを行い適切なケアの提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態をみながら、デイサービスや他ユニットなどを活用してその時できるケアを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歯科往診や避難訓練等、ご入居者に必要であることなどについては適時調整して活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族に了解を得て、毎週月曜日に主治医に往診して頂いている。その他、ご家族等のご希望により他の医療機関へも受診されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師に相談しながら、適切なケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	最近入院される方がいないが、ご入居者の入院時には、情報提供のため介護・看護サマリーを提出して病院関係者との情報交換に努める。入院中、お見舞いに行き病院スタッフと情報交換を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族への説明は、入居時に行っている。その他、状況に応じてご家族にその都度対応について確認しながらご本人ご家族の納得のいく対応ができるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、職員により能力に違いがある為勉強会などを行う予定であるが、実践できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、災害時に備えている。近隣の企業や住民とも連携して訓練を年1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の人格尊重や誇りを大切にするケアができるように、事例検討会などご本人のこれまでの人生を把握する活動を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望について可能な限り実現できるよう業務に余裕のある時間をつくり実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご入居者の生活リズムを優先するよう指導しているが、起床や食事など細かな所で業務都合のケアが見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後など更衣の場面で、特に身だしなみに気をつけているが、多忙時などの職員に余裕がなくなると身だしなみに気がまわらないことがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど個々のご入居者ができることを職員と共に楽しみながら活動できるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好にあった食事の提供に心がけている。便秘がちな方には水分量を把握して摂取量を増やせるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昨年より歯科往診を導入して口腔ケアを強化している。ご本人の能力に合わせたケアに心がけ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご入居者の排泄能力に合わせた介助に心がけている。ご本人のできることに着目して可能な限り自力で排泄行為が成立するよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に注意しながら、適度な運動を促し便秘改善に取り組んでいるが、改善されていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限りご本人の希望に添えるよう支援している。季節感が味わえるよう菖蒲湯やゆず湯なども行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく寝られるよう、空調、時間などの環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	向精神薬の取り扱いに注意し、薬に頼らないケアの在り方について全職員で取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のご入居者の好みに合った活動を把握し、ご本人のペースで活動できるよう心がけながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日頃の会話の中で希望を聞いたり、ご本人の嗜好に合わせた外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理となっているが、ご本人の希望を考慮しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿う形で、できる限り迅速な対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や親しみのある掲示に心がけながら、行事写真や作品などを展示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	多くのご入居者が日中ホールで過ごされることが多いため、ご入居者間の相性等に配慮した座席となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の環境、ご本人の希望を可能な限り取り入れながら、居心地の良い住環境となるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りなど安全に配慮しながら、可能な限り自由に活動して頂けるよう支援している。		